

演題『口腔免疫難病の病理』

大学院医歯学総合研究科 口腔病理学分野 石丸 直澄教授



概要

口腔領域には多種多様な病変が存在し、ユニークな環境の中でそれぞれ複雑な機序を介して発症することが知られているが、多くの病変では詳細な病因が不明なままであり、患者のQOLを大きく損ねることにつながっている。その中で、ドライマウス、ドライアイを主徴とするシェーグレン症候群（シェーグレン病）は、口腔症状ならびに口腔機能の低下とともに全身症状を伴う難病（指定難病53）である。

シェーグレン症候群の患者検体に加え様々な疾患モデルを用いて極めて複雑な病態が明らかにされてきた。本講演では、シェーグレン症候群の疾患モデルの開発から明らかにされた本疾患の多因子病因論に加え、新たな診断法および治療法の開発への可能性について詳説し、皆様と議論を深めたい。

ご略歴

- 1994年 徳島大学歯学部歯学科卒業
- 1998年 徳島大学大学院歯学研究科修了
- 1998年 徳島大学歯学部附属病院 医員（臨床検査室）
- 1999年 同助手
- 2002年 徳島大学歯学部 助手（口腔病理学講座）
- 2003年 同助教授（准教授）
- 2003年 SCRIPPS Research Institute 免疫部門研究員（～2005年）
- 2003年 徳島大学病院病理部副部長（併任）
- 2009年 Garvan Medical Institute 客員教授（～2010年）
- 2011年 徳島大学大学院HBS研究部 教授（口腔分子病態学分野）
- 2012年 徳島大学歯学部副学部長（～2021年）
- 2017年 徳島大学歯学部学科長（～2021年）
- 2018年 徳島大学先端酵素学研究所 教授（併任）
- 2024年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔病理学分野 教授 現在に至る

演題『生涯にわたる口腔保健支援：研究と教育の取り組み』

大学院医歯学総合研究科 生涯口腔保健衛生学分野 竹内 康雄教授



概要

口腔の健康は人々の生活の質（QOL）や健康寿命に直結する要素となっており、歯科口腔保健活動の基礎・裏付けとなる口腔保健学研究は、今後も積極的に実施され、その成果を広く社会に還元していくことが求められている。口腔保健学研究は、保健・医療・福祉分野など関連分野とも連携した総合的な科学的研究分野であるが、歯科、なかでも歯周病学に関する研究は、口腔疾患の治療や予防において基盤となるエビデンスを提供している。生涯にわたり口腔の健康支援を行う歯科衛生士の果たす役割の重要性は増す一方で、超高齢社会を迎えたわが国において、医療資源・人材は限られている。今後、研究成果を活用してより効率的・効果的に口腔保健支援を行い、社会全体の健康増進を図ることが期待される。演者はこれまで、臨床的な視点から歯周病における細菌がその病態や全身の健康に与える影響、また治療法（感染のコントロール）に関する研究を多角的に進めてきた。本講演では、これらの結果を紹介させていただくとともに、今後求められる口腔保健学研究や歯科衛生士教育について概説したい。

ご略歴

- 1997年 東京医科歯科大学歯学部 卒業
- 2001年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了
- 2001年 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯周病外来 医員
- 2002年 ジュネーブ大学医学部歯学科予防歯科学講座 研究協力員
- 2004年 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯周病外来 医員
- 2009年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 助教
- 2017年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野 講師
- 2023年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯口腔保健衛生学分野 講師
- 2024年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯口腔保健衛生学分野 教授 現在に至る